

世界史 授業 No.18 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

パルティアとササン朝の違いとは？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書該当ページ（P. 19・20）の中から見つけよう！

パルティアは前2世紀なかばにメソポタミアをうばい、東西交易の利益を独占して大いに栄えた。

パルティアを倒して建国したのが、農耕を営むイラン人のササン朝である。初期のパルティアが（ 1 ）の影響を強くうけていたのに対し、ササン朝では（ 2 ）を国教に定め、ペルシア語をもちいるなど、イランの（ 3 ）をうけつぐ統治がはかられた。第2代の王（ 4 ）は、シリアに進出してローマを破り、東方ではインダス川西岸にいたる広大な地域をあわせた。

5世紀の後半、ササン朝は中央アジアの遊牧民エフタルの侵入に苦しんだが、（ 5 ）の時代にこれをほろぼし、またビザンツ帝国との戦いも優勢にすすめた。

ササン朝の時代には、イランの民族的宗教である（ 2 ）の教典『アヴェスター』が編集され、3世紀には（ 2 ）に仏教・キリスト教を融合したマニ教もうまれた。

<記入欄>

- 1 () 2 () 3 ()
4 () 5 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T.Q. 「パルティアとササン朝の違いとは？」

T.A.

パルティアは遊牧民のイラン人が〔① 〕朝から独立して建てた国で、〔② 〕で東西交易を行って繁栄した〔③ 〕的な文化の国。ササン朝は農耕民のイラン人による建国で、シャープール1世とホスロー1世の2回全盛期だった。イランの〔④ 〕文化に戻り、〔⑤ 〕教が国教化され、融合宗教のマニ教が生まれた（追放される）。ササン朝の美術・工芸は、遠く日本にも影響を与えた。

<記入欄>

- ① [] ② [] ③ []
④ [] ⑤ []

[] 年 [] H No. [] 氏名 []